

復刻版の発行に寄せて

兵庫県教育長 武田 政 義

本書『震災を生きて－記録・大震災から立ち上がる兵庫の教育－』は、震災から1年を迎えた平成8年1月17日に発行したものです。

あの阪神・淡路大震災直後の本県の教育が直面した状況やそれから1年間の復興への道のりをつぶさに記録し、現在においても震災を語る資料としての価値が高いことから、このたび、震災から10年を迎えるにあたり、当時のままの形で復刻いたします。

いま本書を改めてひもといてみますと、大きな被害に見舞われた震災直後の学校の写真、震災の恐怖やかけがえのない人を亡くした喪失感をありのままに綴った子どもたちの作文、学校再開に向けた苦闘の日々が克明に記された教職員の手記などにより、震災後の学校における教育活動の非常に困難な状況がよみがえり、震災後10年を経過してもなお、本書が未曾有の大震災の記録としての輝きを失っていないことを再認識させられます。

被災した児童生徒、教職員の震災当時の数々の思いが凝縮し、さらには、河合隼雄氏を委員長とした防災教育検討委員会がまとめた提言「兵庫の教育の復興に向けて」などが収録された本書は、震災からの兵庫の教育の創造的復興の原点であり、この10年の間、兵庫県教育委員会が推進してきた「新たな防災教育」のバイブルとも言えるものです。震災直後の混乱を極めた状況の中であって、被災した児童生徒、教職員等の協力を得て、記録にまとめ、残したことは、その後の『防災教育副読本』や『学校防災マニュアル』などの作成、発行につながるなど、本県における「新たな防災教育」推進の根幹をなす取り組みであったと言えます。

震災当時の経験やその後の取り組みを、時を超えて語り継いでいくことは、わたしたちの責務です。このたび震災10年を記念して新たに発行する記録誌『震災を越えて』と本復刻版とにより、未曾有の大震災の経験から得た貴重な教訓をみなさんの記憶に刻み、確実に次代に伝えていただくことを祈念いたします。



地震直後から火災が多数発生。神戸市長田区で発生した火災は、深夜まで火勢が衰えず、街を焼き尽くした



すさまじい揺れは、鉄筋コンクリートのビルをも崩壊させた（神戸市兵庫区）



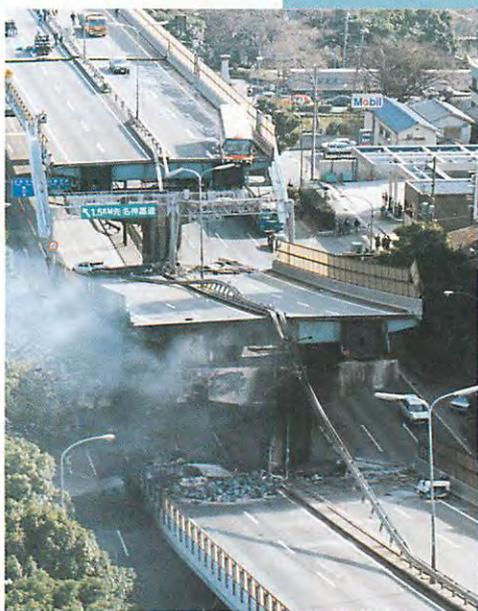
埋め立て地では、液状化現象のため、泥が地中から噴き上げた（神戸市ポートアイランド）



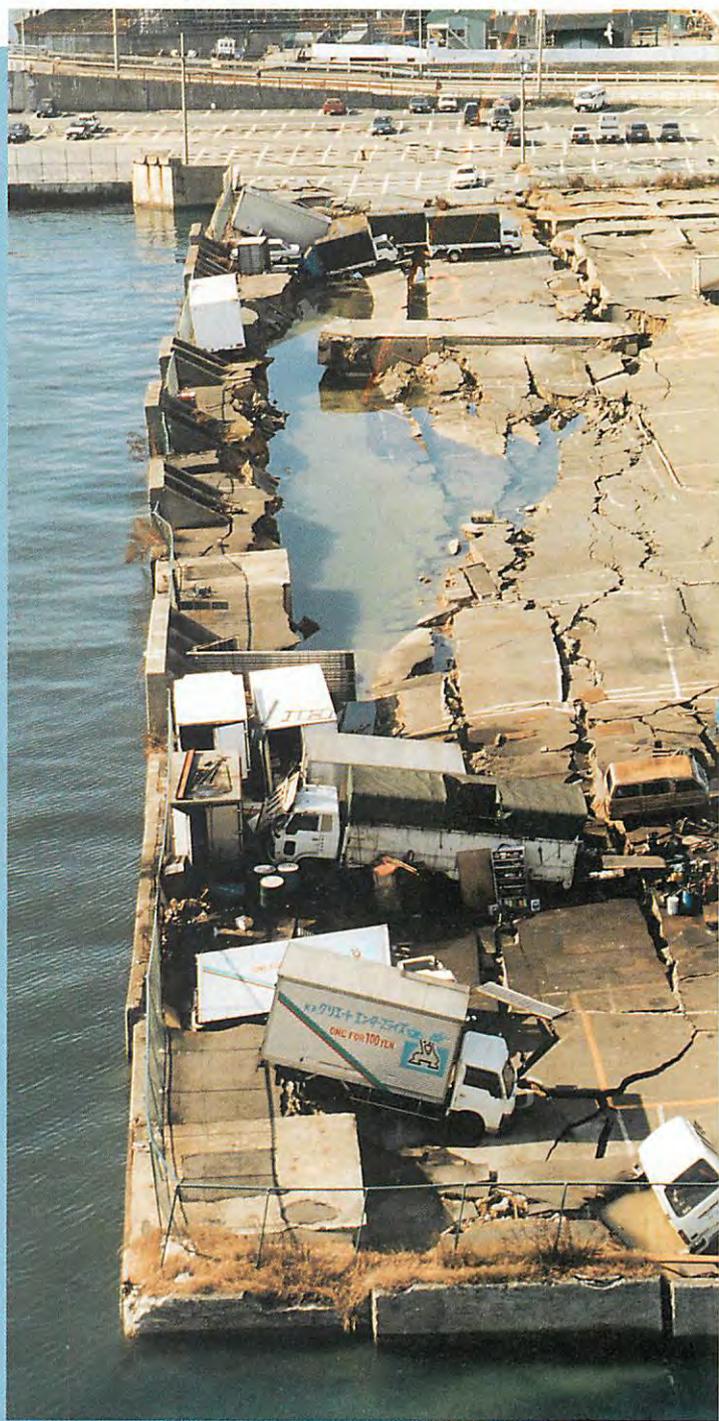
支柱が崩壊し、横倒しになった阪神高速道路（芦屋市）



鉄道も大きな被害を受け、交通網は壊滅的なダメージを受けた
(阪神電車石屋川車庫)



落下した阪神高速道路



岸壁が陥没し、使用できなくなった神戸フェリーセンター
港は壊滅的な被害を受けた



新幹線の高架も橋桁が大きく傾き、倒壊した (西宮市)

震源地



地表に生々しい痕跡を残す野島断層
(津名郡北淡町富島)



屋根瓦が粉々に砕け、木造家屋は軒並み倒壊
(津名郡北淡町)



水を求めて

給水車に長蛇の列を作る被災者
(神戸市長田区)